



平成23年5月24日

春日井市健康福祉部障がい福祉課
春日井市地域自立支援協議会 御中

自主サークル にじいろキッズ

発達障がい児における地域の支援についての要望書（など）

私たち「自主サークルにじいろキッズ」は、春日井市の子育て教室で平成14年より月に一度割合で開催していました。参加者である保護者同士で、発達に不安のある子についての悩みを話したり、経験談を話してきました。

また、保護者同士で就学後も話し合いをしたり、発達障がいのある子たちにもわかりやすいルールで、子どもたちも一緒に楽しめる企画を実現したいと考え、平成22年7月に自主サークルとして活動を始めた集まりです。

現在は月に1回位のペースでげんきっ子センターを主な活動場所として、集まっています。現在登録しているメンバーは15組の親子です。

つきましては、その集まりの中で保護者から出ている意見をまとめました。発達障がいのある子どもたちの環境改善について下記の通り要望いたします。特に、小中学校の学校教育の場における改善を強く要望いたします。

記

■要望内容

小・中学校における支援についての要望の内容をまとめると以下の通り

1. 教員の発達障害への理解について
2. 学級内の支援員について
3. 学校と保護者を結ぶコーディネーターの機能充実について
4. 学級人数について
5. 幼児期から児童期にかけての支援の連続性について

■各要望内容について保護者からの意見

1、 教員の発達障害への理解について

- 学校の先生全員に発達障害について学んでほしい。定期的に講習を受けて欲しい。そう思った理由は、担任以外の先生からの心無い言葉で傷ついた事がありました。このようなことが少なくなると嬉しいと思います。
- 学校の先生方は発達障害の講習や研修を受けて勉強しているとお聞きした事がありますが、適切に理解してない先生が多いと感じます。たとえば、親が発達障害とは何かということ先生たちに説明しなければいけないことも多くあり、またその努力が水の泡になってしまった事がありました。

2、 学級内の支援員について

- 先生たちの仕事が多いのもわかるので、地域の人たちの協力を得て「支援員」という形を作って欲しいと思います。

支援員の方たちが学校で見守りをしていただけることによって、いろんな子どもたちとの接し方や発達障害のあるなしにかかわらず、人とのつながりやコミュニケーションを学ぶことができる良い機会とすることができると思います。

さらに、ひいては、障がいのある人への接し方を身につけることができると思うのです。子どもの時から自然に障がいのある子への接し方を身につけていたら障がいのある子たちが大人になり社会に出ても理解ある人が多ければ社会で働く事もできますし、障がいのない人たちと一緒に生きていく事も出来る社会になるのではと思うのです、すごく大きな事です、その為にも支援員が必要だと思ひます、集団生活の出来る学校の時にこそ必要だと思ひのです。

- 市議会だよりに支援者養成講座をする考えはない、非常勤講師の活用をすると答弁がありました。そうであるなら学校に一人とかでなく十分な数を求めます。特に幼稚園から上がる1年生には手厚く。春日井市は就学以前の子育て支援は力を入れているのが感じられますのでその流れを学校教育にも繋げてほしいです。

非常勤講師だと授業を持ちつつ見るのかティームティーチングでサブとして入りつつ見るのかわかりませんがどちらにしても発達障害の子の日々の困り感を助けるためには密着して入る形にしないと改善しないと思ひます。また発達障害部会など設け東部西部など地区毎各校担当者が集まり事例討議するのを定期的に行うとか。アドバイザーを交えて、そういう取り組みがどれくらい行われているのか公開してほしいと思ひます。

- 学校内での支援者を増やしてほしいと強く願ひますが、学校職員でない人が入るということで先生方には苦痛を与えるかもしれません。学校の先生方にも何かサポートがあれば、もっと事がスムーズに運ぶ様に感じられます。
- 支援員という形は必要だと思ひます、発達障害の子たちには細かく丁寧に関わる事が必要

です、でもそれは発達障害の子だけではなく健常な子たちにも丁寧な関わりが必要な子がたくさんいます子どもの時に信頼できる大人と関わる事は子どもの心を豊かにすると思えます。大人の介入しない子ども同士関わりも大切だと思えますが、ストレスを抱えたまま学校に通っている子もたくさんいます。支援が必要な子に手を差し伸べて欲しいです。

3、学校と保護者を結ぶコーディネーターの機能充実について

●保護者と学校の間に入って相談にのっていただけるコーディネーターが居て欲しいです、現状では校務の先生が兼任されていますが、兼任では負担が多いと思えます。コーディネーターの方に中立な立場で子どものことを考えてもらいたいと思えます。

現状では学年が上がる度に子どもの特性についてだけでなく、発達障害についても説明しています。コーディネーターの方が居て下さったら、毎年お忙しい先生方にお時間を作っていただいて親が説明にうかがわなくてもよくなるのではないのでしょうか？もちろん親でなければ説明出来ない特性についてはお話に伺いたいとは思っています。

●小学校だけの問題ではなく、中学校でも同じことが言えると思えます。わが子はいま小学生ですが、この先、中学生になった場合は教科ごとの先生に特性を説明しに伺わなければならないのかと思ってしまう、とても不安に感じているので、その点もコーディネーターの方で連携を取っていただけると助かります。

親が子どもの事で学校側に話に行っても心配しすぎと考えられでしまいます、それもコーディネーターの方が中立に判断していただけると大変ありがたいと思えます。誤解は子どもに負担がのしかかり、良いことではないと思えます。

4、学級人数について

●現在の40人近い人数だと、配慮や支援が行き届かないので、一クラスの人数を高学年になっても30人以下にしてほしい。

それは、勉強・生活の面で子ども全体に良い対応ができるのではないかと考えます。

他の子への配慮になると思うことも多くあり、手がかかることで他のお子さんの不満（ひいきにされている）が、いじめなどの次の問題につながるのではないのでしょうか。

5、幼児期から児童期にかけての支援の連続性について

●春日井市の健診等で発達テストを受けられたらいかがですかとすすめられ、発達障害がわかり親として子どもとの関わり方を考えるきっかけになった事は良かったと思っています。ただその先の就学する時の面談等は普通学級と支援学級への振り分けの為だったのかと感じてしまう事があります。入学前に教頭先生と面談をしても、結局一年生の担任になられた先生に一から話して、また学年が上がると新しい担任に一から説明をする事になります。市として幼児健診での早期発見をすすめられるのであれば、その後の小学校、中学校での生活

面のフォローにも力を入れて頂きたいと思います。例えば各学校に専任のスタッフをせめて一名配置して頂き、在学中通してみてもらい、担任の先生と連携して子どものフォローが出来る体制を整えて頂く事を要望します。

(これらのことは、支援員を導入していただくことと、コーディネーター機能を充実させていただくことで軽減できると思います。)

以上、メンバーから集約した意見をもとに、要望書を作成致しました。
これらの件につきまして、春日井市地域自立支援協議会でご検討いただき、要望の項目の実現に向けてご議論いただきますよう、重ねてお願い致します。

以上

—団体情報—

団体名 にじいろキッズ

平成22年7月23日登録

主な活動場所：春日井市子育て子育て総合支援館（げんきっ子センター）

サークル紹介：多様なニーズのある子どもと家族の交流を深め相互支援ネットワークを作ることを目的とする。

活動状況：月1回程度、母親の会。年2回程度、親子の会